

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

アストモスエネルギー株式会社（証券コード：－）

【新規】

長期発行体格付
格付の見通し

A-
安定的

■格付事由

- (1) 大手 LP ガス元売会社。62 年創業の三菱液化瓦斯を前身とし、06 年に三菱液化瓦斯、出光ガスアンドライフ、三菱商事の LP ガスユニットが統合することで設立。中東、北米をはじめとした多様な調達基盤を有し、輸入から販売まで一貫した供給・販売体制を構築している。また、世界有数の規模を誇る LP ガス船隊を擁し、三国間貿易や船舶のトレーディングも展開している。これら強固な事業基盤を背景に、LP ガスの輸入取扱量および国内販売シェアは業界トップクラスである。近年は、資本提携や業務提携を通じて国内 LP ガス小売領域での取り組みも強化しており、安定的な収益源の確保に努めている。出光興産が 51%、三菱商事が 49% の議決権を保有しており、両社の持分法適用関連会社となっているが、経営面で一定の独立性を有するほか、株主 2 社による経営への影響力が概ね均衡していることなどを踏まえ、当社格付にはスタンダードアローン評価を適用している。
- (2) 当面も一定の利益を確保できる見通しである。業績は LP ガス価格や用船市況の変動の影響を受けるものの、LP ガス国内元売事業や三国間貿易では、輸入価格と連動した販売フォーミュラの構築やヘッジ取引の活用などを通じて比較的安定した利益を稼いでいる。船舶のトレーディングにおいても船隊コストの適正化などの取り組みにより、業績が大幅に悪化するリスクは抑えられている。また、国内の卸売・小売領域は安定した利益を生み出しており、今後も業績の下支えとなることが想定される。さらに、当社のように一貫したサプライチェーンを構築している企業は限られており、事業基盤が揺らぐ懸念は小さいと考えられる。財務内容はおおむね健全である。今後は投資の積極化により財務構成が悪化する見通しであるものの、財務健全性の目標が設定されており、財務基盤が大きく損なわれる懸念は小さいと見ている。以上を踏まえ、格付を A- とし、見通しを安定的とした。
- (3) 24/12 期経常利益は 210 億円（前期比 7.8% 減）となった。歴史的高値で推移していた用船市況が落ち着くもとで減益とはなったが、20/12 期以前と比べて高い利益水準を維持した。25/12 期以降はボラティリティを伴いながらも、一定の利益を確保できると見ている。市況リスクへの耐性強化の取り組みを通じて、利益の安定性が高まっているほか、国内 LP ガス小売領域での取り組み強化により安定収益の拡充が進むと想定される。なお、LP ガスの備蓄義務もあり、LP ガス価格の変動で在庫評価損益が大きく出る可能性がある点に留意が必要である。一方、こうした在庫影響を含む損益は必ずしも実質的な収益力を表していないため、JCR では在庫影響を除く利益を重視している。
- (4) 24/12 期末自己資本比率は 33.7% であり、おおむね健全な水準にある。自己資本も緩やかながらも着実に積み上がっており、在庫評価損などによる将来の業績変動リスクに対して、相応のバッファーを確保している。一方、今後は LP ガス事業を中心とした周辺領域への投資の拡大が計画されており、有利子負債は増加していく見通しである。ただ、財務健全性の目標が設定されており、財務基盤が大きく損なわれる懸念は小さいと考えられる。

（担当）関口 博昭・長安 誠也

■格付対象

発行体：アストモスエネルギー株式会社

【新規】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2025年12月12日

2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：水川 雅義
主任格付アナリスト：関口 博昭

3. 評価の前提・等級基準：

評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。

4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：

本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）として掲載している。

5. 格付関係者：

（発行体・債務者等） アストモスエネルギー株式会社

6. 本件信用格付の前提・意義・限界：

本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。

本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。

本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。

7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：

- 格付関係者が提供した監査済財務諸表
- 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明

8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：

JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。

9. 格付関係者による関与：

本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。

10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものではありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っています。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等をすることは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル